

*risei + trip*

*vol.*  
10



特集

わたしがプロに  
なれた理由。

特集

# わたしがプロになれた理由。



プロバスケットボールBリーグの「大阪エヴェッサ」でトレーナーとして働いている卒業生の橋本花菜さん。「プロのトレーナーになる」という夢を最短で実現させた背景を取材しました。



photographs by Junko Nakata



橋本さんの1日:午前中は選手の個別練習の準備と練習のサポート。並行して、選手のニーズに応じたストレッチやテーピングを行う。午後はチーム練習が行われるコートの傍らで選手を見守り、飲料の管理等も。そして練習後は選手の体をケアと、選手中心の一日を過ごしている

履正社医療スポーツ専門学校のアスレティックトレーナーコースには、「アドバンスコース」と呼ばれる特別カリキュラムがある。

2年制の学校生活で日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー（以下、AT）資格を取得し、卒業後、最大1年間にわたって学校が提携するプロチームでインターンのトレーナーとして活動することができるというシステムである。

この「アドバンスコース」を修了し、今年度からプロバスケットボールBリーグの「大阪エヴェッサ」でアシスタントトレーナーとして正規採用されたのが、平成30年3月に卒業した橋本花菜さんだ。

「履正社に入学した当初から、プロのトレーナーを目指して勉強してきました。インターンの期間中、とにかく日々、目の前の選手のために頑張りました。」そう語る橋本さんは島根県生まれ。高校時代はバスケットボールに打ち込んだ。インターハイ出場、県代表として団体出場も果たしたものの、全国レベルの壁の高さを痛感。一方、ケガに悩まされた時に、トレーナーにリハビリやケガをしない体づくりを教わったことがきっかけとなり、バスケットボールに携わるトレーナーという職業を目指すことを決めた。「履正社は2年でATの資格が取れるし、実際にプロや日本代表チームでトレーナー経験を積んだ先生方が多いので、「ここで学びたい」と思いました。」

## 「履正社の先生」の強み。

日本のスポーツ界において、プロチームや日本代表チームのトレーナーとして働くための「免許」となるのが、日本スポーツ協会公認のAT資格。合格率の全国平均は3割に満たないという狭き門である。

履正社はその理論試験で、2年制の学校としては2018年から2年連続、関西ナンバワンの現役合格者数を出している学校。それでも橋本さんにとって、AT試験は大きなチャレンジだった。

「高校時代は勉強が得意な方ではなかったのですが、必死にやりました。受け身で勉強しているだけでは合格できないと気づいて、先生のところへガツガツ教えてもらいに行っていました。履正社の先生はわかるまで根気よく教えて下さいます。本当に、そこが強みです。」日々の座学の勉強に加え、現場実習では年間を通して、履正社高校野球部の練習グラウンドに通った。レベルの高い環境でモチベーションを高め、時にはプロチームのトレーナーに連絡を取って会いに行き、アドバイスをや経験談をどん欲に吸収した。

## チームから届いた採用通知。

プロチームでインターン経験が積める「アドバンスコース」がスタートしたのは、橋本さんが最終学年の2年生になった時。就職活動の時期だった。

「実は就職の内定もいただいていたんです。でも私はプロチームのトレーナーを目指していたから、挑戦しなかつたら後悔すると思いました。」

そして学内の選考面接をクリアし、始まった大阪エヴェッサでの最長1年間のハードな研修生活。

ただ「選手のことを第一に」考え、選手がケガなくプレーに専念できるように、チームの勝利に貢献できるよう、最大限の努力をした。書籍を漁って日々勉強を続け、学んだことを実践するために志願してジュニアチームのトレーナーも務めた。そして1年後、チームから採用オファーが届いたのだ。

「ずっとバスケットをしてきて、多くの人にお世話になってきました。いつかは地元の子どもたちにケガなくバスケットを楽しんでもらえるように、貢献したいです。」一つ一つ、夢を実現させていく橋本さん。彼女の物語はまだ始まったばかりだ。